

# 御三家ポケモン図鑑

世代を超えた最初のパートナーたち

## はじめに

ポケモンシリーズにおいて、プレイヤーが冒険の最初に選ぶ三匹のポケモン、いわゆる「御三家」は、その世代の象徴とも言える存在である。くさ・ほのお・みずという三すくみの関係は初代『赤・緑』から一貫して受け継がれており、シリーズの根幹を成すデザイン原則のひとつとなっている。

本資料では、第3世代（ホウエン地方）、第4世代（シンオウ地方）、第7世代（アローラ地方）の御三家、計9匹を取り上げ、それぞれの特徴を概観する。各世代ごとにモチーフや進化の方向性に新たな試みが見られる点に注目してほしい。

## 第3世代：ホウエン地方

2002年に発売された『ルビー・サファイア』で初登場したのが、キモリ、アチャモ、ミズゴロウの三匹である。

キモリは木の上で生活する小型のヤモリ型ポケモンで、素早さに優れた性能を持つ。アチャモは二足歩行のひよこ型で、進化を重ねるごとに格闘要素を強めていく独特の進化ラインを持つ。ミズゴロウは頭の鰭で水流を感知する両生類型のポケモンで、最終進化のラグラージはみず・じめんという当時として防御面で優秀な複合タイプを獲得する。

## 第4世代：シンオウ地方

2006年の『ダイヤモンド・パール』で登場したナエト

ル、ヒコザル、ポッチャマは、第3世代から4年を経て登場した新たな御三家である。

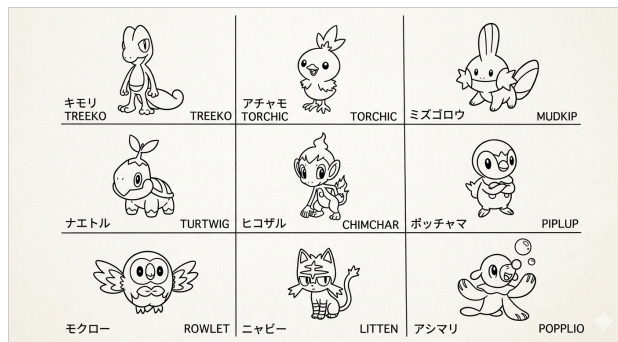


図1. 第3・4・7世代の御三家ポケモン

ナエトルは亀をモチーフにした落ち着いた性格のポケモンで、最終進化ドダイトスは背中に山を背負った壮大なデザインで知られる。ヒコザルは活発な猿型で、進化先のゴウカザルは対戦環境でも人気を博した。ポッチャマはペンギン型で、その愛らしい外見からアニメシリーズでも準主役級の活躍を見せた。

## 第7世代：アローラ地方

2016年の『サン・ムーン』で登場したモクロー、ニャビー、アシマリは、ハワイをモチーフにしたアローラ地方の御三家である。

モクローは丸い体型のフクロウ型で、初期からくさ・ひここの複合タイプを持つ点が特徴的だ。ニャビーは黒猫型で、クールな性格設定とともに進化後にあくタイプを獲得する。アシマリはアシカ型で、鼻から作り出す水風船を武器とするユニークな戦闘スタイルが設定されている。

## データ表について

本資料に掲載した一覧表は、各ポケモンの基本情報をまとめたものである。図鑑番号、画像、日本語名、英語名、タイプ、世代、そして初期HP値（種族値）の7項目で構成されており、世代を横断した比較が可能となっている。

表1. 御三家ポケモン一覧

No.	画像	日本語名	英語名	タイプ	世代	HP
001	treecko.png	キモリ	Treecko	くさ	第3	40
002	torchic.png	アチャモ	Torchic	ほのお	第3	45
003	mudkip.png	ミズゴロウ	Mudkip	みず	第3	50
004	turtwig.png	ナエトル	Turtwig	くさ	第4	55
005	chimchar.png	ヒコザル	Chimchar	ほのお	第4	44
006	piplup.png	ポッチャマ	Piplup	みず	第4	53
007	rowlet.png	モクロー	Rowlet	くさ・ひこ う	第7	68
008	litten.png	ニャビー	Litten	ほのお	第7	45
009	popplio.png	アシマリ	Popplio	みず	第7	50

HP種族値を見ると、モクローの68がやや高めである一方、キモリの40が最も低く、ポケモンごとに明確な個性付けがなされていることが読み取れる。

## おわりに

御三家ポケモンは単なるゲーム上の選択肢ではなく、各世代のプレイヤーにとって思い出深いパートナーである。タイプの三すくみという普遍的な構造を保ちながらも、世代ごとにモチーフや進化の方向性に新たな試みが見えられており、シリーズの継続的な進化を象徴する存在と言える。